

札幌市立大学

研究・活動事例集

2025



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学

研究・活動事例集

2025

札幌市立大学は、デザインと看護の2学部、2研究科、助産学専攻科を設置し、「人間重視」と「地域社会への貢献」を基本理念に掲げ、デザインと看護の特色を活かした教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。また、2022年度にAITセンターを設置し、AIとITに関する研究を行うとともにデザインと看護をAIが下支えする研究にも取り組んでいます。

本冊子は産学官金連携・地域連携等にさらに積極的に取り組むため、多くの方々に本学の教員の最新の研究事例をご紹介することを目的に発行いたしました。札幌市立大学教員の教育・研究、地域社会との連携活動に関心を持っていただければ幸いです。

（本文中の役職は2024年度当時のものです）



札幌市立大学

研究・活動事例集 2025

I. 研究交流活動＜2024 年度 SCU 産学官金研究交流会＞(2024.11.27 アスティ 45 16 階 ACU-A 大研修室)

- 02 1. 厳冬期災害における避難支援および避難所環境に関する研究
～寒冷環境下の避難所を想定した非常食のニーズ～

看護学部 講師 鬼塚 美玲

- 06 2. 北海道の訪問看護事業所における新卒ナース採用・育成の課題の検討

看護学部 教授 菊地 ひろみ

- 10 3. 北海道における集成材工場の建設・稼働による経済波及効果

デザイン学部 准教授 古俣 寛隆

- 14 4. 水素アシスト型自転車タクシー「PIONIE」の筐体デザイン開発

デザイン学部 助教 榊田 聡志

- 18 5. 物体検出・物体追跡技術を用いた交通量調査プログラムの開発

AIT センター 教授 高橋 尚人

- 20 6. ポスター・展示発表一覧

II. 展示会等の参加

- 24 1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2024」(2024.7.24 アクセスサッポロ)
・「八百カフェ」の活動及び地域産学連携事業の紹介

デザイン学部 准教授 片山 めぐみ

- 26 2. 第 38 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」(2024.11.7～11.8 アクセスサッポロ)
・木製遊具「ユールボード」、木製食器の展示、連携プロジェクトの制作物、
口腔ケアシミュレーターの紹介

デザイン学部 教授 三谷 篤史

III. 地域連携・地域貢献活動

- 30 1. 公開講座開催
33 2. 受託研究
33 3. 共同研究
34 4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
42 5. 研究支援地域連携センターのご案内



研究交流活動

＜2024 年度 SCU 産学官金研究交流会＞

2024 年 11 月 27 日(水) 14:00～16:30 アスティ 45 16 階 ACU-A 大研修室 1614

【カテゴリー1：看護】

1. 厳冬期災害における避難支援および避難所環境に関する研究
～寒冷環境下の避難所を想定した非常食のニーズ～

鬼塚 美玲(看護学部 講師)

2. 北海道の訪問看護事業所における新卒ナース採用・育成の課題の検討

菊地 ひろみ(看護学部 教授)

【カテゴリー2：デザイン】

3. 北海道における集成材工場の建設・稼働による経済波及効果
4. 水素アシスト型自転車タクシー「PIONIE」の筐体デザイン開発

古俣 寛隆(デザイン学部 准教授)

栢田 聡志(デザイン学部 助教)

【カテゴリー3：AI】

5. 物体検出・物体追跡技術を用いた交通量調査プログラムの開発

高橋 尚人(AIT センター 教授)

ポスター・展示発表



広報チラシ(表)



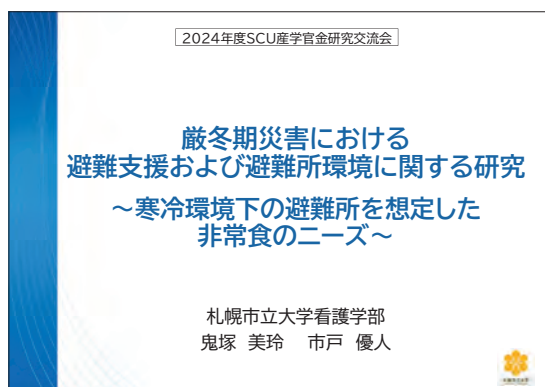
広報チラシ(裏)

厳冬期災害における避難支援および避難所環境に関する研究 ～寒冷環境下の避難所を想定した非常食のニーズ～

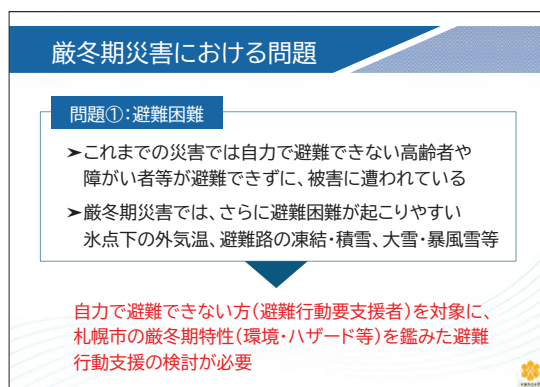
鬼塚 美玲

札幌市立大学 看護学部 講師

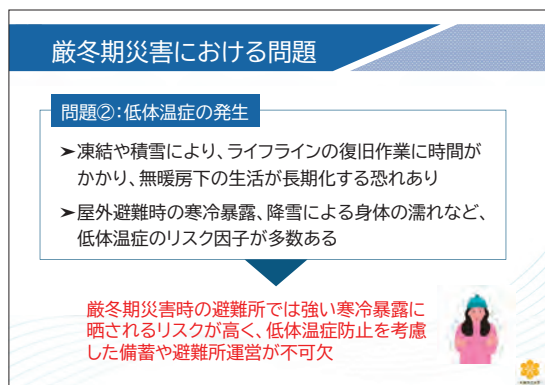
札幌市は積雪寒冷特別地域かつ豪雪地帯であるため、寒冷環境や雪環境下の災害(以下、厳冬期災害)に対する防災・減災対策が不可欠である。本研究は、厳冬期災害を想定した避難行動要支援者の避難支援および低体温症対策を考慮した避難所の環境整備に向け、①地理情報システム(GIS)を用いた避難行動要支援者の避難計画の検討、②避難所の就寝・滞在空間に関する実証実験、③避難所における効果的な非常食の検討を実施した。今回は③の非常食に焦点を当て報告する。本研究は札幌市受託研究である。



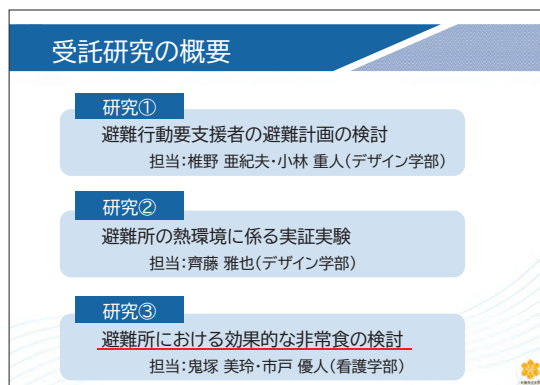
01



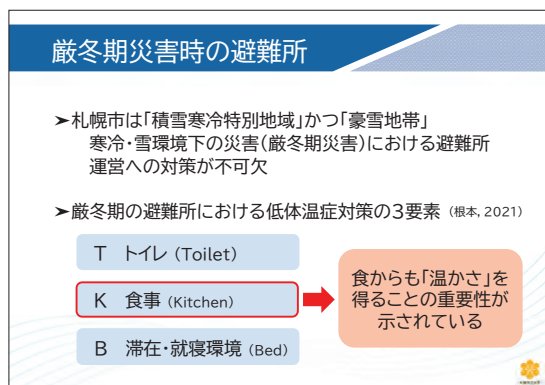
02



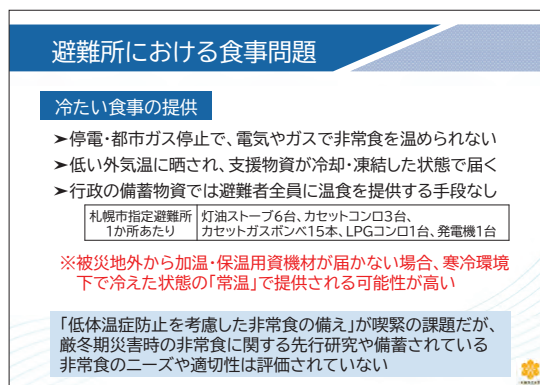
03



04



05



06

研究目的・意義

研究目的

厳冬期災害時の避難所を想定した寒冷環境下での非常食に対するニーズを調査し、低体温症防止を考慮した非常食の備蓄検討に向けて示唆を得る

研究意義

本研究の成果は、厳冬期災害時の避難所における食事問題の改善と有用な非常食の備蓄に寄与できる

厳冬期災害の特性に応じた非常食を提供できれば、低体温症の発症リスクの回避・低減が期待される

07

研究方法

研究デザイン

質問紙調査を用いた調査研究

調査期間・場所

厳冬期災害時の避難所を想定し、2024年2月6日に札幌市内の体育館(3日間無暖房・調査時の室温約5℃)で実施

対象者

A大学の学生・教職員、B市職員 45名

調査プロセス

①非常食の試食 → ②アンケート調査

08

データ収集方法

非常食の試食(6種類)

➢現状から提供される可能性が高い「常温」(無暖房の体育館で1日保管)4種類と、低体温症予防に効果的とされる「加温」2種類

➢①→⑥の順に試食(④のみ順序は自由)

***赤枠:札幌市の備蓄物資と同種類**

常温食(無暖房の体育館で1日保管した状態)				加温食	
①アルファ米	②おでん缶	③ゼリー飲料	④水	⑤アルファ米	⑥ココア
五穀ごはん(純国産食品) たけのこごはん(純国産食品) 梅しそごはん(純国産食品) ドライカレー(アルファ米食品) ※約5℃の水で作成	おでん缶 牛すじ大根7種缶(天狗出汁)	LIFESTOCK エスジータイプベター(LIFESTOCK)	天然水280ml(サントリ)	①のアルファ米と同じ種類 ※9℃の湯で作成	バンクーバー ココア280ml(アサヒ飲料) ※食上添加物「アサヒ」 ニ(PW9DEOP-S3、日本ヒートテック)で製造

09

データ収集・分析方法

アンケート調査(無記名式)

調査項目	回答方法
①属性(性別・年齢)	記述式
②各非常食に対するニーズ	選択式(5件法) 1. 非常に食べたい、2. 食べたい、3. どちらともいえない、4. あまり食べたくない、5. まったく食べたくない
③②の回答理由	記述式

➢配布方法:会場で直接手渡し
➢回収方法:回収箱への投函

分析方法

➢量的データ:記述統計
➢質的データ:質的帰納的分析
(研究者間で検討を重ね厳密性を確保)

調査時の様子

10

倫理的配慮

研究者の所属機関の倫理委員会の承認を得た (No.2335-No.2)

➢研究参加で受ける寒冷暴露は日常生活と同等のため「心身へのリスクなし」と判断

➢寒冷暴露による負担軽減のための対策

- 調査前後の体調確認
- 適切な防寒服の着用依頼と受付時の服装チェック
- 調査後、カイロの提供

➢試食による負担軽減のための対策

- 摂取量は感想が分かる程度で良いことを事前説明

11

結果 | 対象者の属性

➢回収数:45名(回収率100%) 有効回答率:100%

性別

年齢

平均年齢42.8±13.7歳

12

結果 | 非常食に対するニーズ

平均値

5件法(1.非常に食べたい〜5.全く食べたくない)の回答結果

13

結果 | 回答理由(常温の非常食)

常温・ポジティブな側面

カテゴリ	コード数
常温でも美味しい	10
空腹時であれば食べられる	6
問題なく食べられる味	4
冷たくても食べられる	3
お腹が満たされる	3
炭水化物はエネルギーの補給になる	3
非常時であれば問題なく食べられる	2
想像していたより美味しい	2
常温でも美味しい	2
様々な食材が入っていて美味しい	4
栄養が摂ることができる	2
想像が美味	4
出汁が美味しい	2
食事らしく食べられる	2
中身が缶より美味しく感じる	1
非常時はなんでも食べたい	1
容器(缶)をガスで温められる	1

非常食ごとにコード化・カテゴリ化
内容から「ポジティブ」と「ネガティブ」に分類

カテゴリ	コード数
甘くて美味しい	7
手軽に栄養・エネルギーを摂取できる	5
冷たくても美味しい	3
体調が悪い時でも摂取しやすい	3
非常時に甘いものを食べられることが嬉しい	3
水分補給になる	2
食べるものがない状況であれば食べられる	2
普段食べているため問題なく食べられる	1
想像どおり美味しい	1
食べた時はしみる	1
生きる上で水は大切	14
常温でも違和感がない	9
濃い非常食で喉が渇き水分を欲する	7
毎日飲んでいるため安心する	1
無味で飽きない	1

14

結果 回答理由(常温の非常食)			
常温:ネガティブな側面			
カテゴリ	コード数	カテゴリ	コード数
体が冷える	5	体が冷える	6
ごはんが冷たい	5	食感が良くない	5
お米の芯が残っており食感が硬い	4	容器が冷たく持つ手が冷える	4
食感が(ササバ)している	3	ゼリー飲料が好みではない	3
寂しい気分になる	2	甘すぎる	3
やむなく食べるが美味しくはない	2	飲みにくい	2
継続的に食べるのは辛い	1	カロリーが低い	1
しょっぱい	1	食事の楽しさが無い	1
温かい味を知っているが口に食べづらい	1	非常食の中で優先して食べたいとは思わない	1
液体は体が冷える	14	体が冷える	6
温かいものを冷たい状態で食べることに違和感がある	9	冷たさで水分摂取がすすまない	4
缶が冷たく持つ手が冷える	5	水分摂取でトイレが近くなる心配	3
長によって食感が硬い	3	他の非常食で水分補給はできる	1
塩分と水分でトイレが近くなる可能性	1		
寒い中で冷たいものを食べることへの切なさ	1		
手の痺みで箸を上手く使えない	1		
同じ食事が続くと感じる	1		
非常食の中で一番最初に食べたいとは思わない	1		

15

結果 回答理由(温食の非常食)			
温食:ポジティブな側面			
カテゴリ	コード数	カテゴリ	コード数
温かいご飯は心身ともに温まる	23	米が硬い	3
温かくて美味しさが濃まる	10	匂いやバツキが強くなる	1
非常食を持つ手に温かさを感じられる	4	非常食であれば食べられる	1
味が美味しい	4	甘くないものを欲しない時がある	1
食感がしっとりして柔らかい	4	甘い飲み物は食べ物との相性がある	1
普段のお米と遜色ない	2		
力がつきそう	2		
温かく甘い飲み物はほっとする	14		
体が温まる	8		
温かくて優しい	6		
持っているだけで手が温まる	5		
温かく甘い美味しい	4		
暖かくなるとエネルギーになる	4		
寒い中での温かく甘い飲み物は想像以上に美味しい	2		
寒さが緩和される	1		
甘い物で疲れが取れる	1		
香りが幸福感をもたらす	1		
味の想像がしやすく和む	1		

16

考 察			
常温でも「美味しい」「食べたい」との評価が得られたが、予想通り、『温食を食べたい』とのニーズが高かった			
	加 温	常 温	
	▶ 体が温まる(非常食を持つ手も) ▶ 温かいことで美味しさがアップ ▶ 甘く温かい飲料は特に美味しい	▶ 体が冷える(特に液体、缶の容器) ▶ 冷たさで摂取が進まない ▶ 継続的に食べると辛い	
備 蓄 への 示 唆	◎低体温症防止には「温かさ」と「カロリー(エネルギー)」が必要 温かさの他、摂取が進む点でも「温食」の提供は不可欠		
	◎簡単に温かさでカロリーを得られる、温かく甘い飲料(粉末)は有用 ※加温・保温資機材の備蓄が必須(最低限、湯確保用の資機材は必要)		
	◎汁ものや缶の容器は体の冷えを助長する可能性あり		
	◎手の痺みで手指の操作性が低下(箸を使いにくくなる) ※寒冷環境下での摂取を考慮し、非常食やカトラリーの選定が必要		

17

研究の限界と今後の課題			
▶ 厳冬期災害時に現実的に起こり得る「常温」の非常食を先に試食してもらった ⇒「常温後の加温はより美味しい」等、非常食の試食順が評価に影響を及ぼした可能性は否定できない			
▶ 安全性を考慮し、対象者は「健康な成人」に限定した ・低体温症の高リスク群は、高齢者などの要配慮者 ・高齢者は嚥下機能の低下等による「食べづらさ」あり ⇒ 今後は対象者を拡大し、追加検証が必要			

18

結 論			
▶ 厳冬期災害を想定した避難所では、温かい非常食に対するニーズが高く、非常食の種類(形態、容器)によっては寒さを助長する可能性が示唆された			
▶ 積雪寒冷特別地域では寒冷環境下での摂取を考慮した非常食の種類やカトラリー類の選定、最低限、湯確保のための資機材の備蓄が不可欠である			

19

北海道の広域性に即した新卒訪問ナース育成の課題を見出すことを目的とし、全道 684 の訪問看護ステーションを対象に、訪問看護ステーションの人員規模・教育体制・新卒ナース採用意向等について調査した。振興局、訪問看護ステーションの規模、教育体制等と新卒ナース採用意向との関連が確認された。本報告は 2023 年の第 28 回日本在宅ケア学会で報告したものである。

北海道の訪問看護事業所における新卒看護師採用・育成の課題

札幌市立大学看護学部
菊地 ひろみ



01

- ・本発表に関して、開示すべきCOIはありません。

02

そもそも訪問看護

病気や障がいの療養する人に対して、看護師が自宅などに赴いて看護を提供
○ 病院完結型の医療から地域完結型への医療へ
○ 「治す」医療から「支える」医療へ

小児等40歳未満の者および要介護者・要支援者以外の訪問看護利用者
約38万人¹⁾

要介護・要支援者
訪問看護利用者
約64万人²⁾

1) 訪問看護療養費実態調査 (R3年6月調査分) 2) 介護給付費等実態統計 (R3年6月調査分)

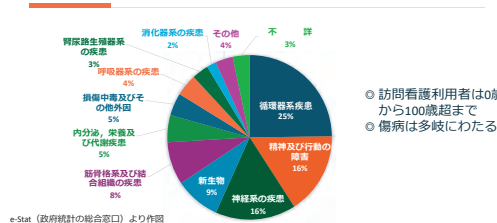
03

訪問看護利用者数



04

訪問看護利用者傷病別割合



05

1. 背景

- 療養者の自宅 (= away) に訪問し、年齢、傷病が多岐にわたる療養者を看護する訪問看護の特性から、新卒ナースには難しいとされてきた
- 訪問看護ステーションにも即戦力 (経験者) を求める傾向があり、新卒者を採用し育成する動きは乏しかった
- 訪問看護に関心のある学生は2割 (1万人)、訪問看護師の平均年齢は47歳 (全国訪問看護事業協会)

06

1. 背景

新卒から訪問看護に就業することは、新卒ナース、訪問看護ステーション双方のメリットがある

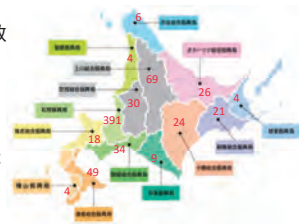
- 新卒ナース：生活経験が乏しいとされる若いナースたちが、退院後の患者の生活をリアルに学び、生活という視点で看護を考える
- 訪問看護ステーション：訪問看護ステーションの活性化、教育力の向上

07

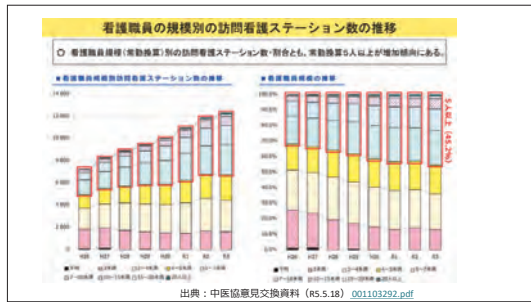
訪問看護ステーション数

○ 全国の訪問看護ステーション数
17,329か所
(2024年全国訪問看護事業協会)

○ 北海道の訪問看護ステーション数
684か所
そのうち391か所が札幌市に所在
(2024年北海道厚生局)



08



09

1. 背景

- 訪問看護ステーションが石狩管内に集中し、訪問看護ステーションの地域偏在が顕著
- 増加する在宅療養者に対して慢性的な訪問看護人材不足
- 常勤換算5名未満の小規模ステーションが5割超

10

2. 目的

- 北海道内の新卒ナース採用・育成体制整備の遅れが指摘される中、新卒訪問ナース採用・育成の課題の明確化

11

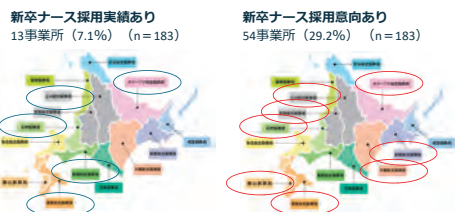
3. 方法

- 対象 北海道厚生局公表（令和4年9月）の訪問看護事業所 684施設（悉皆）
- 調査方法 無記名自記式質問紙調査
- 調査期間 2022年10月～11月
- 分析方法 記述統計、Kruskal-Wallis検定、 χ^2 検定
- 倫理的配慮 本学倫理委員会の承認を経て実施

12

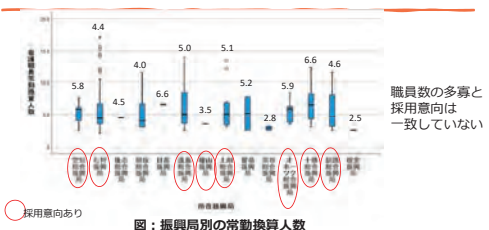
4. 結果

回収数187事業所（回収率27.3%）



13

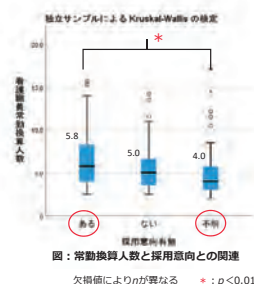
4. 結果



14

4. 結果

- Kruskal-Wallis の検定 $p=.005$
- Bonferroniの多重比較
- 採用意向「あり」と「不明」において有意差（ $p=.003$ ）



15

4. 結果

- 新卒教育プログラムの有無と採用意向との関連

		採用意向の有無			合計	p値
		ある	ない	不明		
新卒教育プログラムの有無	ある	度数 25	4	5	34	$p<.001^{1)}$
	総和の%	13.8%	2.2%	2.8%	18.8%	
	ない	度数 29	64	54	147	
	総和の%	16.0%	35.4%	29.8%	81.2%	
合計		度数 54	68	59	181 ¹⁾	
		総和の%	29.8%	37.6%	32.6%	100%

χ^2 検定 * : $p<.001$ ¹⁾ : 欠損値によりnが異なる

16

4. 結果

◎ 教育体制の有無と採用意向との関連

		採用意向の有無			合計	p値
		ある	ない	不明		
教育体制の有無 (n=184) ¹⁾	ある	度数 30 総和の% 16.3%	5 2.7%	6 3.3%	41 22.3%	p<.001*
	ない	度数 24 総和の% 13.0%	65 35.3%	54 29.3%	143 77.7%	
	合計	度数 54 総和の% 29.3%	70 38.0%	60 32.6%	184 ¹⁾	
					100	

χ²検定 * : p<.001 ¹⁾ : 欠損値によりnが異なる

17

5. 考察

- ◎ 全国の新卒訪問看護師採用実績3.4%と比較し、採用率は高い
- ◎ 採用実績のある5 振興局のうちの4 振興局を含む8 振興局の訪問看護ステーションが採用意向を示した
- ◎ 採用経験がある訪問看護ステーションは、継続して採用意向をもつ印象

18

5. 考察

- ◎ 新卒ナースへの教育プログラムがある訪問看護ステーションは2 割弱
- ◎ 教育体制が整っている訪問看護ステーションは2割強
- ◎ 経営収支に占める人件費は7 割～8 割とされ、経営規模、職員数等から採用に踏み切れないステーションの存在

19

5. 考察

- ◎ 政令市・中核市を含む振興局に採用実績が多く、情報入手、ネットワーク形成で有利な側面
- ◎ 都市部に看護系の教育施設が多く、リクルートに有利

20

5. 考察

- ◎ 新卒採用者への教育体制、プログラムづくりで大学教員とのコラボレーション
- ◎ 採用経験のあるステーションからの教育プログラム・体制づくりのKnow/Howの提供
- ◎ 採用後、初期投資を回収するまでの財政基盤（約1年）

21

5. 限界

- ◎ 新卒ナース採用に関心のあるステーションの回答が多い選好バイアスの可能性
- ◎ 振興局によって回答割合のばらつきがあり、振興局全体の傾向を示しているといえない

22

6. まとめ

- ◎ 新卒ナース採用・育成には、職員規模、教育プログラム、教育体制に課題が確認された
- ◎ 在宅看護教員のリソースを訪問看護ステーションの新卒教育に活用する取り組みに着手

23

道産集成材の道内自給率が非常に低い。工場の規模が小さく、数も少ないことが理由である。道外では国産材の大型工場が稼働している。道内にも大型工場が必要だが、補助金等の支援を受けるためには効果が認められなくてはならない。そこで、工場の計画時に、行政や金融機関に対する補助・融資のための根拠提示を目的とし、産業連関分析によって大型集成材工場の建設および稼働による道内への経済波及効果を明らかにした。

2024年11月27日(水) 2024年度SCU産学官金研究交流会
ACU16階 大研修室1614

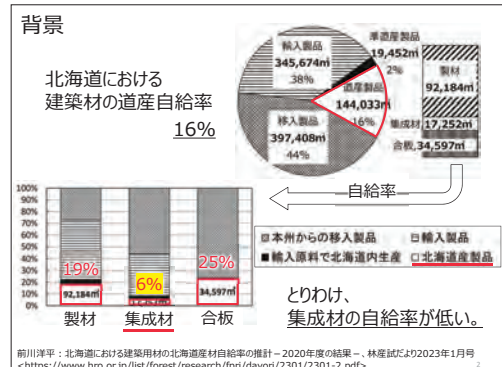
北海道における集成材工場の
建設・稼働による経済波及効果

札幌市立大学 ○古俣寛隆
株式会社ハルキ 鈴木正樹、春木真一

札幌市立大学
sapporo city university

株式会社ハルキ

01



02

背景

なぜ自給率が低いのか？

- 生産量が少ない
→ R3道内集成材の総生産量は、3.1万m³/年
* 全国生産量の0.15%
- 工場規模が小さい
→ R3道内集成材工場の平均生産量は、2.6千m³
* 全国平均 (15.0千m³/工場・年) の1/5未満

つまり

道産集成材は、コストとデリバリーに課題があり、
現状システムで、自給率の大幅な向上は困難

・北海道水産林業部林務局林業木材課：R3内部資料
・農林水産省HP：木材需給調査報告書 調査結果の概要 (素材需給の動向及び木材産業の動向)、令和3年
<<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuza/index.html#y>>

03

背景

- 道外では、国産材大型集成材工場の建設が進むが、事業費は大 (生産量3.6万m³/2シフト・年の工場の事業費 40億円弱)。
- 建設のためには、補助金や融資の申請が必要だが、見合う効果が認められなくてはならない。

↓ 本研究

行政や金融機関に対する効果の提示を目的とし、
大型集成材工場の建設および稼働による道内への
経済波及効果を産業連関分析により明らかにする。

栗駒県産材組合より やまびこ、第34号、<くま県産材組合発行・編集
<<http://kurishin.ec-net.jp/img/yamabiko34.pdf>>

04

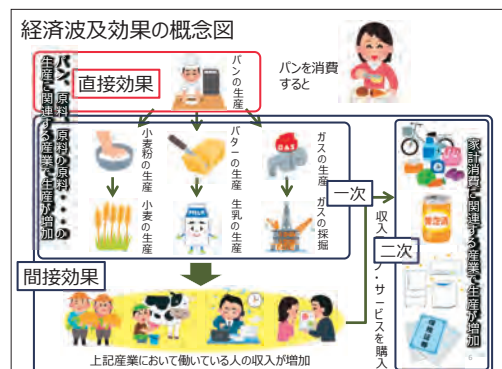
産業連関表

産業部門名

産業部門名	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計
農林水産業	532	2,187	123	2,842	530	89	2,486	3,095	5,879	-1,228	4,651	
製造業	1,206	7,811	4,076	12,393	6,116	6,255	13,364	25,734	38,137	-18,873	21,654	
建設業	872	3,937	10,284	15,093	28,543	2,829	2,851	34,223	48,346	-5,808	43,537	
卸売業・小売業	2,719	13,133	14,486	30,338	35,179	9,133	18,683	62,995	65,323	-23,558	41,765	
宿泊業・飲食サービス業	987	3,113	13,139	16,851								
情報・通信業	799	2,267	6,563	9,629								
金融・保険業	592	1,581	6,857	9,030								
その他	-47	1,359	2,433	3,945								
合計	1,941	8,522	29,972	39,434								
道内産業	4,651	21,654	43,457	69,762								

あるエリアにおける1年間の経済活動を表したもの。
数字は金額を表す。

05



06

方法

平成17年北海道地域産業連関表公表用基本分類を用いた。



部門数が404×350で最も詳細なため。
なぜなら、林業・林産業関連部門が詳細であることが重要。



集成材部門は合板部門に内包され、集成材特有の投入・産出構造を反映した分析ができない。
そこで、森井らの論文を基に、部門を拡張した。

森井拓哉ら：合板・集成材部門の分割による産業連関表の拡張、産業連関、30 (1), 61-75 (2023)

07

方法

拡張表の作成

- 森井らの表（49部門）を、木材関連以外の部門を中分類程度にまとめ、36部門に統合（森井36部門表）
- 森井36部門表の合板および集成材部門の投入・産出額から投入係数を算出（森井投入係数）

1 林業	10 木材チップ	19 金属製品	28 不動産
2 畜産	11 その他の木製品	20 一般機械	29 運輸
3 その他の農林水産業	12 パルプ・紙・軍用	21 電気機械	30 情報通信
4 鉱業	13 化学製品	22 輸送機械	31 公務
5 鉄鋼製品	14 プラスチック製品	23 建設	32 製造・研究
6 機械製品	15 その他の化学工業製品	24 電力・ガス・熱供給	33 医療・福祉・社会保険・介護
7 製材	16 窯業・土石製品	25 水道・廃棄物処理	34 娯楽・サービス
8 合板	17 鉄鋼	26 商業	35 娯楽・サービス
9 集成材	18 非鉄金属	27 金融・保険	36 その他

08

方法

拡張表の作成

- 拡張表の合板および集成材の生産額（コントロールトータル）：平成17から21年度の平均値
- 同粗付加価値部門の金額（コントロールトータル）：同平均値の比率で案分
- 同内生部門と粗付加価値部門の金額：森井投入係数と各コントロールトータルからRAS法を用いて算出
- 最終需要部門の金額：同平均値の比率で案分

9

09

方法

経済波及効果算定の段階



10

10

方法

与件データ

- 建設
 - 集成材工場の規模：最大26,000 m²/シフト・年
 - メーカーの見積書を使用、機械や工事金額をカワハギ、振り分け
- 集成材消費
 - 積算期間：20年
 - 集成材生産量（＝消費量）：20,000 m³/年
 - 全て道産丸太、道産ラミナを原料とする
 - 購入者価格：80,000円/m³、カワハギ、振り分け
- 視察
 - 積算期間：5年
 - 宿泊者数：10人/月、日帰り者数：30人/月
 - 消費パターン：国土交通省観光庁の資料を使用

国土交通省官公庁HP：旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究報告書 <<https://www.mlit.go.jp/common/001579306.pdf>>

11

11

方法

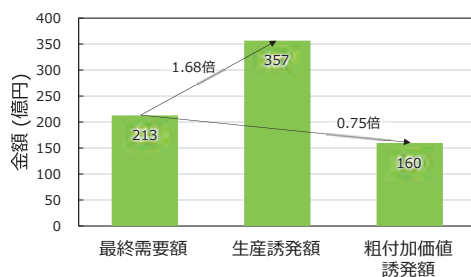
自給率の設定

- 集成材消費に伴う生産波及の自給率
 - 第一次間接効果におけるラミナおよび丸太の自給率を100%に調整
- それ以外の自給率
 - 平均自給率

12

12

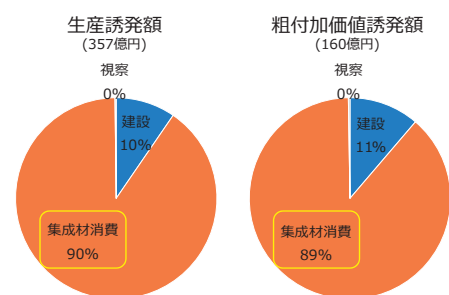
結果 - 効果 (金額と倍率) -



13

13

結果 - 段階別の金額 -



14

14

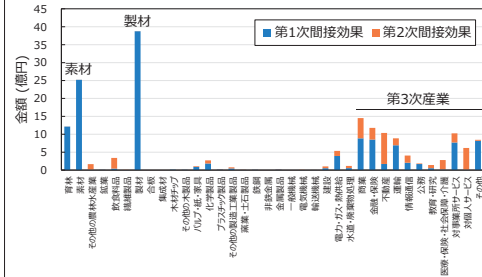
結果 - 段階別の効果倍率 -

	生産誘発額 最終需要額	粗付加価値誘発額 最終需要額
建設	0.65	0.35
集成材消費	2.01	0.88
視察	1.14	0.67
全体	1.68	0.75

効果の倍率でも、集成材消費段階が最も大きい。

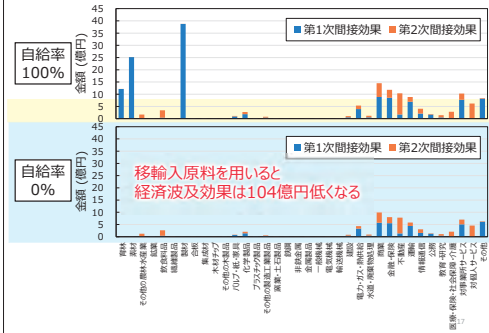
15

結果 - 集成材消費に伴い生じる間接効果 -



16

結果 - 原料による効果の違い -



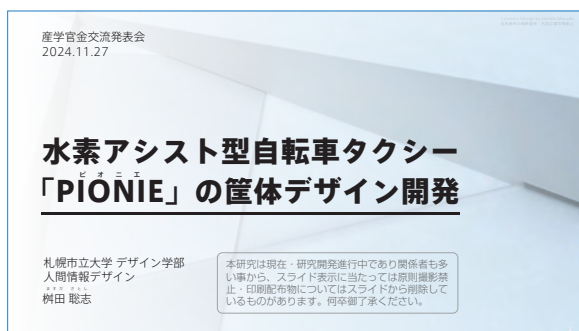
17

まとめ

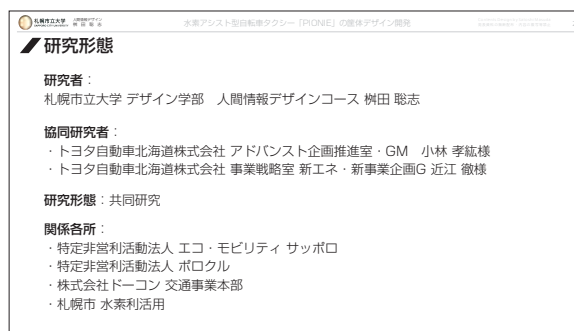
- 集成材工場の建設・稼働、道産集成材製造による経済効果を示した。
- 行政や金融機関に対する根拠資料として活用する。
- 森林整備や林業・林産業、地域経済への貢献度を説明し、地域の集成材工場の大規模化の必要性について協議したい。

18

札幌市内で現在運用されている電動アシスト型自転車タクシー（ペロタクシー）の水素エネルギーを用いた動カアシスト版の新型車両開発において、水素利活用の価値が対外的に伝わる訴求力を備えたコンセプト立案、および運用の利便性も兼ね揃えた車両の意匠考案を行う。当車両の主要ユーザーは乗客であるが、運転手、ならびに都市の一風景としてこれを眺める市民もユーザーと言える。それぞれに訴求する価値の違いを整理し、エルゴノミクスやユニバーサルデザインの観点を含めた外観を求める。



01



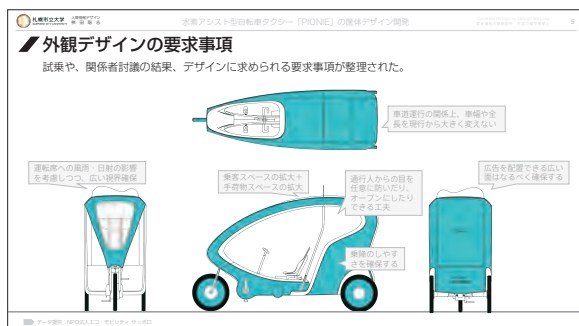
02



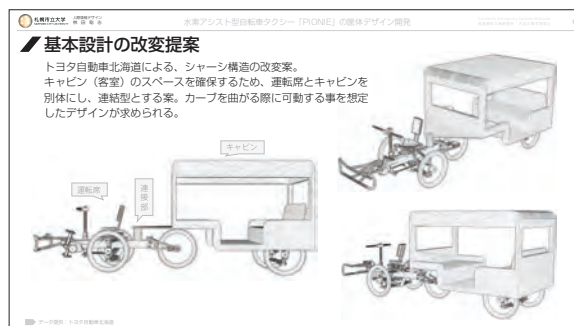
03



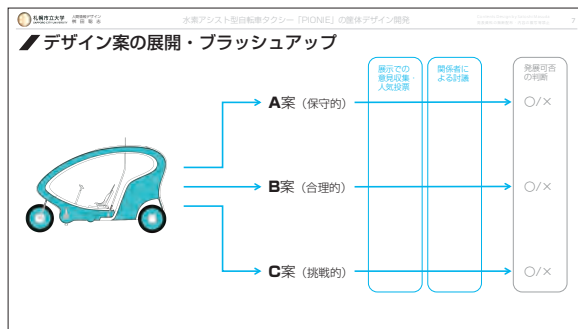
04



05



06



07



08



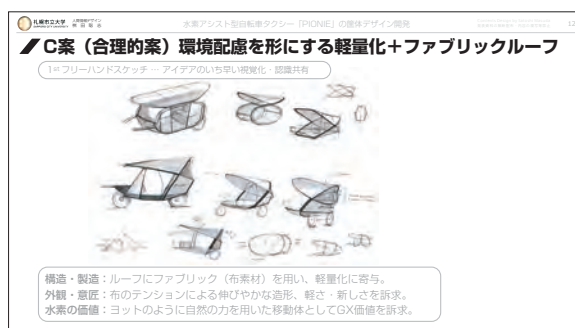
09



10



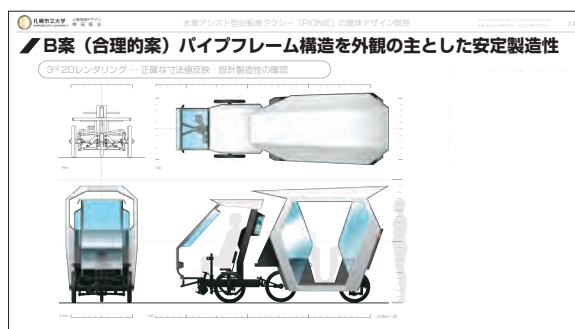
11



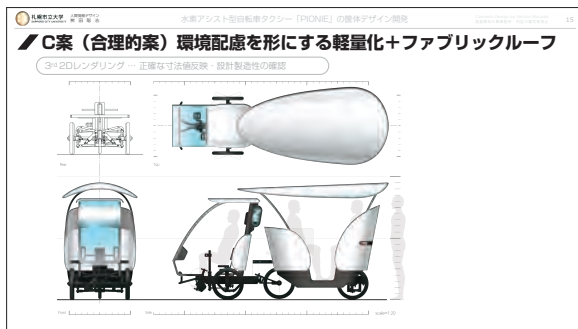
12



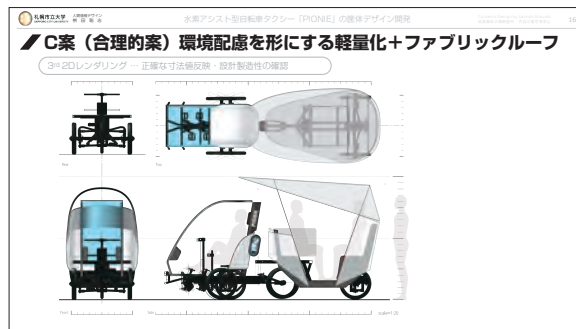
13



14



15



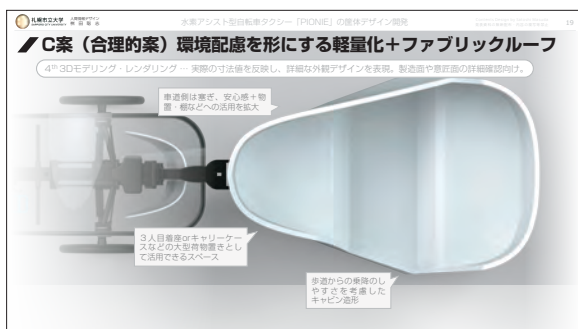
16



17



18



19



20

本研究では、交通量調査の省力化・省人化を目指し、ビデオ画像を処理することで交通量を計測するプログラムの開発に取り組んだ。当該プログラムは、物体検出技術で検出した車両を物体追跡技術で追跡し、画像上に設置した計測断面を跨いだ場合に台数をカウントする仕組みとなっている。既往の交通量調査で撮影したビデオ画像で精度を検証した結果、90%以上の精度で車両台数を計測できることを確認した。

物体検出、物体追跡技術を用いた交通量調査プログラムの開発

2024年度 SCU産学官金研究交流会
2024年11月27日

札幌市立大学AITセンター 高橋尚人

01

北海道・札幌市の将来推計人口

- 【北海道】2050年の北海道の総人口は382万人と推計。
- 【北海道】2050年には全市町村で人口が減少し、減少率が50%以上の市町村数は67。
- 【札幌市】2060年の札幌市人口は158.9万人、高齢化率は40.8%

札幌市の年齢3区分別人口及び高齢化率

札幌市の年齢3区分別人口および高齢化率の将来推計

様々なアプローチで対処。AIをはじめとした“デジタル技術”の活用は必須

02

交通量調査

- 道路の計画立案等に活用するため、道路上の調査地点を通過する車の台数を数える調査。
- 調査対象道路延長は、全国で約19.5Km (R3年調査)。
- 機械観測が推進されているが、人手による観測が40%を占める (R3年調査)。

交通量観測方法別区間延長割合

令和3年度 全国道路、一般交通量調査結果の概要について、国土交通省道路局企画課

03

物体検出技術

- 物体検出：画像の“どこに”・“何が”写っているかを検出？
※画像：デジタル画像であれば、動画、静止画を問わない

物体検出技術を用いた交通量調査のイメージ

04

物体検出技術 YOLO

- YOLO: You Only Look Once ←人生一度きり (You Only Live Once.)
- 80種類の物体を検出可能な学習済みモデルが用意されている。
- 自作のデータセットで学習させることも可能。

YOLOの学習済みモデルに交通量観測のビデオ画像を読ませてみると、

車の検出は可能。だが、

05

物体検出技術を適用する上での課題と対応策

課題①YOLOの学習済みモデルは、交通量調査の車種分類に対応していない。

→自作のデータセットを用意し、交通量調査の車種分類に対応した交通量調査用の検出モデルを構築する。

課題②交通量（検出車両の台数）を数えることができない。

→物体追跡技術で、検出車両を追跡する
→カウンターを設置し、車両が計測線をまたいだ場合に台数を数える

06

ポスター・展示発表一覧

【札幌市立大学】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
石田 勝也	デザイン学部 講師	環境情報を使用したメディアアートの展開
三谷 篤史 村松 真澄	デザイン学部 教授 看護学部 准教授 松永 康佑(デザイン学部 講師) 田頭 正一(西健康づくりセンター)	高齢者の好みを反映させることが可能なレクリエーションコンテンツ制作システムの開発
三谷 篤史 榎本 隆一	デザイン学部 教授 (株)キボロコ	誰もが遊べる木製インクルーシブ遊具「ユールボード」の開発 ～(株)キボロコとの協働開発プロジェクト～
榎田 聡志	デザイン学部 助教 小林 孝紘(トヨタ自動車北海道(株)) 近江 徹(トヨタ自動車北海道(株))	水素アシスト型自転車タクシー「PIONIE」の筐体デザイン開発
古俣 寛隆	デザイン学部 准教授 鈴木 正樹(株)ハルキ 春木 真一(株)ハルキ	北海道における集成材工場の建設・稼働による経済波及効果
菊地 ひろみ	看護学部 教授 大月 真弓(北海道科学大学) 宮田 久美子(北海道科学大学) 青柳 道子(元札幌医科大学) 上田 泉(元札幌医科大学) 岡田 尚美(元札幌医科大学) 服部 裕子(元札幌市立大学) 竹生 礼子(北海道医療大学) 川添 恵理子(北海道医療大学) 鹿内 あずさ(北海道文教大学) 照井 レナ(日本医療大学)	北海道の訪問看護事業所における新卒ナース採用・育成の課題の検討
石井 雅博	デザイン学部 教授	身に着けている人の印象を向上する服装色は存在するか？
坪内 健	デザイン学部 助教 吉田 彩乃(デザイン学部 助教) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授)	飼育動物の見守りのための行動特性の解明と映像の試作：札幌市円山動物園のキリンの屋外放飼場を対象として
柿山 浩一郎	デザイン学部 教授 佐藤 聖隆((一財)札幌市交通事業振興公社) 森本 竜也((一財)札幌市交通事業振興公社) 西田 宜孝((一財)札幌市交通事業振興公社) 佐藤 詩織((一財)札幌市交通事業振興公社)	札幌市の路面電車(低床車両)におけるラッピング広告ガイドラインの検討
大島 卓	デザイン学部 准教授	札幌市立駒岡小学校屋上緑化施設の今後の活用方策について
西川 忠	デザイン学部 教授	耐震化途上国におけるストリートビューを用いた耐震性調査の研究
齊藤 雅也	デザイン学部 教授 本田 直也(デザイン学部非常勤講師) 鈴鹿 新平(札幌市) 松本 渉(株)大建設計)	札幌市円山動物園「オランウータンとボルネオの森」の室内気候デザイン

栗原 知己 平山 憲吾	看護学部 助教 看護学部 助教	看護基礎知識に関する大規模言語モデルの性能比較
鬼塚 美玲	看護学部 講師 市戸 優人(看護学部 助教) 椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 小林 重人(デザイン学部 准教授)	厳冬期災害における避難支援および避難所環境に関する研究 ー寒冷環境下の避難所を想定した非常食のニーズー
高橋 尚人	AITセンター 教授	物体検出・物体追跡技術を用いた交通量調査プログラムの開発
武富 貴久子	看護学部 講師 栗原 知己(看護学部 助教) 牧野 夏子(看護学部 准教授) 田中 里江(看護学部 助教) 村松 真澄(看護学部 准教授) 樋之津 淳子(看護学部 教授) 中村 恵子(看護学部 名誉教授) 森川 由紀(国際医療福祉大学) 藤井 瑞恵(札幌保健医療大学) 吉岡 尚美(愛心メモリアル病院)	看護師のキャリアアップを地域で支える継続教育の取り組み ー副師長を対象としたリフレクション研修ー

【北海道立総合研究機構】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
大宮 知	花・野菜技術センター	赤色LEDで暑さにまけない花づくり～トルコギキョウの品質アップ～
長坂 晶子	林業試験場 森野 祐助(エネルギー・環境・地質研究所) 牛島 健(北方建築総合研究所)	水道事業再編に向けた水資源情報の「見える化」 Ⅱ. 渓流水
森野 祐助	エネルギー・環境・地質研究所 長坂 晶子(林業試験場) 牛島 健(北方建築総合研究所)	水道事業再編に向けた水資源情報の「見える化」 Ⅰ. 地下水
田園 大樹	さけます・内水面水産試験場 室岡 瑞恵(さけます・内水面水産試験場) 安藤 大成(さけます・内水面水産試験場) 後藤久典(三菱ケミカル株) 小川 順(京都大学農学研究科) 安藤 晃規(京都大学農学研究科)	生分解樹脂PBSA材の脱窒効果:陸上養殖のゼロエミッション化、養殖魚が排泄する窒素を大気に戻す技術
石井 旭	北方建築総合研究所 牛島 健(北方建築総合研究所)	北海道農村地域における地域運営の再編を支援する～地域の仕事の棚卸し手法(地域住民編、行政編)の提案～
泉 巖	工業試験場 産業システム部 人間情報応用グループ	見守りのための映像脈波計測技術の開発
小林 哲也	食品加工研究センター応用技術部応用技術グループ 中央農業試験場加工利用部農産品質グループ、北海道大学大学院水産科学研究院	冷蔵加工食品の加熱殺菌と農産具材の軟化低減技術

【北海道中小企業家同友会】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
竹内 康	(株)ライトン	“洗濯の困った”を解決する完全オーダーメイド洗剤の販売 —洗剤×就労支援のビジネスモデルで洗剤価値を最大化する—
七戸 千絵	(株)The St Monica 酪農学園大学、(一社)Pine Grace、藤女子大 学人間生活学科、黒田ハーブ農園(株)	藤女子大、黒田ハーブ農園(株)とのハーブプロジェクト 弟子屈のアカエゾマツの精油を利用したリラクゼーション効果
三島 千枝	チエモク(株)	サスティナブルな木材、とはどのようなものか？ ～人が育てない広葉樹の活用と再生について～
中井 真太郎	(株)エース・クリーン 蒸煮木質飼料生産・利用協議会	森の木から生まれた地球に優しい粗飼料 産学官連携により事業化された地域資源循環の取組と見出さ れた機能性

【北洋銀行】

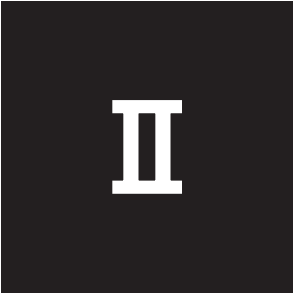
発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
吉田 智弘	公金・地域産業支援部	北洋銀行が開催する「ものづくり企業」向けの商談会～産学官 金が連携し、ものづくり企業の成長をサポート

【北海道医療福祉産業研究会】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
七戸 治	北海道医療福祉産業研究会	・医療福祉分野の器具・ICTの開発を産学官で支援 ・会員の多種多様な技術を活かして製品開発を進めます。

【札幌市】

発表者	発表者所属 / 共同研究者	研究課題
照井 陽介	まちづくり政策局グリーン・トランスフォーメーション推進 室特区担当課	「わが国のGX(グリーン・トランスフォーメーション)をリードする北海道・札 幌」



Ⅱ

展示会等の参加

1. 「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2024」
(2024.7.24 アクセスサッポロ)
2. 第 38 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネス EXPO」
(2024.11.7～11.8 アクセスサッポロ)

「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2024」

2024.7.24 アクセスサッポロ

主催: 北洋銀行

Title 「八百カフェ」の活動及び地域産学連携事業の紹介

Author 片山 めぐみ デザイン学部 准教授

Report 北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的に「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2024」が 7 月 24 日（水）、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

本フェアは北洋銀行主催の展示型商談会であり、2019 年まで開催していた「北洋銀行ものづくりテクノフェア」をリニューアルしたものです。本フェアでは、持続可能な社会の創造をテーマとし、ものづくり、環境/SDGs、IT/DX、知的財産、スタートアップ等の幅広い分野から 153 社・団体の出展がありました。また、約 4,200 名の来場があり、商談の成約や販路拡大につながる情報交換が活発に行われました。

（※一部大会主催者報告から抜粋）

本学からは、学生と教員及び地域住民が共同で開催しているマルシェ「八百カフェ」の活動について、実際に広報用に配布したチラシや出展物などを展示したほか、本学の地域産学連携協力依頼制度のポスターを展示し、片山准教授から訪問者へ丁寧な説明を行いました。

ものづくりサステナフェアという性質から、全体的にハード面の出展が多い中、本学は地域活性化を企画したソフト面での展示が目立され、訪問者に興味を持っていただき、本学の新たな発見をして頂けたと思われます。

Image





QRコード 八百カフェ公式サイト
<https://yaocafe.jp/>



第 38 回 北海道 技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」

2024.11.7～11.8 アクセスサッポロ

主催：北海道 技術・ビジネス交流会実行委員会（事務局 ノーステック財団）
[北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道経済連合会 他]

Title

木製遊具「ユールボード」、木製食器の展示、連携プロジェクトの制作物、
口腔ケアシミュレーターの紹介

Author

三谷 篤史 デザイン学部 教授

Report

北海道の経済活性化や産業振興のため、新たなビジネスチャンスの創出を目指した北海道最大の展示会“ビジネスEXPO「第 38 回北海道技術・ビジネス交流会」”が 11 月 7 日（木）・8 日（金）の 2 日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催されました。

今年度は“創造的破壊を北海道から～GX／DX／SXで革新的イノベーションを～”をテーマに開催し、企業・団体・大学・研究機関から合計 308 社・機関の出展、規模は 294 小間（ブース）となりました。例年の5ゾーンに加え、開催テーマに沿って「未来創造ゾーン」を昨年に引き続き設置し、昨年初めて設定した「半導体ブース」を大きく拡大するとともに、新たに、「北海道データセンター」、「北海道発スタートアップ」、「Team Sapporo-Hokkaido」ブースや、「ゼロカーボン北海道」、「宇宙関連」ブースも設け、既存の考え方にとらわれない新たなビジネスモデルを紹介し、大いに注目を集めました。また、ロボットアームなど、省力化やDX促進に繋がる最先端機器を紹介する「先端技術ゾーン」等、時代の潮流に合う展示内容は、北海道の新たな可能性を感じることができました。総来場者数は 21,261 名でした。（※大会主催者報告より実績を抜粋）

本学からはデザイン学部三谷教授が、学生や共同開発者の(株)キボロコ様と協力し、常設ブースに出展して、木製遊具「ユールボード」、木製食器の展示、連携プロジェクトの制作物、口腔ケアシミュレーターを紹介しました。質問に答えながら研究概要や展示の説明を行った結果、来場者アンケートからは「看護とデザインという全く異分野が連携しての取り組みにとっても興味がわきました。」「ユールボードが楽しかったです。ありがとうございました。」などのコメントをいただきました。地域貢献に興味がある企業をはじめ、幅広い年齢層の方と交流し、展示品を通して本学の研究内容などについて知っていただくことができました。

また、本会場には企業見学・就職支援のために道内大学・高専・工業高校生約 1,200 名を招待しており、多くの学生が来場しました。本学のブースも学生の訪問を歓迎し、展示を通じて大学の学びの一端を紹介しました。

Image



「ビジネス EXPO」本学展示ブース風景

展示の様子



札幌市立大学 地域産学連携協力依頼事業 -産学連携のご相談はお気軽に!!-

札幌市立大学 地域連携課



SCU※産学連携相談窓口

地域・産学連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学連携相談窓口」を開設しています。「研究・活動の内容を知りたい」「札幌市立大学との連携方法について知りたい」など、地域・産学連携に関する疑問・質問・ご要望がありましたら、気軽にご相談ください。ご来訪の際はあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。

※SCU:SAPPORO CITY UNIVERSITY

本学の特長(DNA)

本学はD(デザイン)とN(看護)の両学部を併せ持つ大学です。その特長を生かし、両学問が連携・共同して「教育・研究・地域貢献」を行っています。さらに、2022年度にAI・ITを研究するAITセンターを設置しました。DとNによる両分野の連携をAI研究が下支えし、本学の異分野連携によってこそ可能になる、人々の暮らしや社会に新たな価値を創造する活動を実践しています。この連携をDNA(Design×Nursing×AI)と呼称しています。

事例

●NTT東日本札幌病院診察券デザイン募集 NTT東日本札幌病院



NTT東日本札幌病院様から、2022年に創立100周年を迎えたのを機に、診察券のデザインを刷新したいとのご相談を受け、デザイン制作を行いました。デザイン学部学生23名から59作品が集まり、その中から病院職員による審査で、3点の作品が選出されました。選出された3点の作品すべてが実際に採用されることになりました。患者様は好きなデザインを選択できます。

●「芸術・創造的な活動」及び「遊び」を通じた ウェルネス推進イベントの実施 札幌市保健福祉局



依頼団体と連携し、市民交流プラザSCARTS モールB、Cにてあそびイベントを実施しました。当該イベントは幅広い世代を対象としており、楽しみながら身体を動かすことや、運動習慣等の重要性に気づき将来にわたって実践するきっかけになることを目的としています。当日は2つのあそび場を設け、各々130人程の参加者が集まりました。

●札幌市制100周年記念花電車事業 札幌市総務局



札幌市制100周年記念事業の一つである花電車のデザイン制作をしました。デザイン学部2年生4名が参加し、その中から1名の学生の作品が採用されました。作品タイトルは「100周年のさっぽろ」で、札幌の歩みを新都市電車面で表現するとともに、モエレ沼公園、大倉山ジャンプ競技場をモチーフとし、背景に札幌を取り巻く山並みと大通公園の鮮やかな花壇を曲線で表現したものです。運行期間中、花電車が通ると、多くの人が足を止めて眺めたり、カメラで撮影していました。

●道民の179で彩る木彫りクマ NHK札幌放送局



NHK札幌様からご依頼をいただき、「木彫りのクマと旅するHokkaido」の展示作品を制作しました。道民の皆様が見つけた大好きな北海道の景色やステキな思い出をテーマに描いたクマの塗り絵や、景色の写真を募集し、本学デザイン学部の学生団体「きほんのきのかい」が、その集まった塗り絵や写真を使ったコラージュ木彫りクマを2体制作しました。1体は、長いフィルム風に加工した札幌市の風景写真でコラージュした「れたたん(アイヌ語での白、レタラより)」。もう1体は、写真一枚一枚を丸く切り抜き、ワインの原料であるぶどうの房に見立て帯広エリアの風景を表現した「ぶどうだべあ」です。作品は、NHK札幌ロビーで展示されました。

●ご相談はお気軽に

本学は、人間重視と地域社会への貢献という教育・研究の理念のもと、地域に根ざした大学として地域支援活動に積極的に取り組んでいます。地域の皆様や様々な組織の方からのご相談を積極的にお受けしておりますので、なにかご相談事がありましたら、下記までお気軽にご相談ください。

SCU産学連携相談窓口
(札幌市立大学事務局 地域連携課
地域連携担当)
〒005-0864
札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2346
FAX:011-592-2369
E-mail:orc@scu.ac.jp

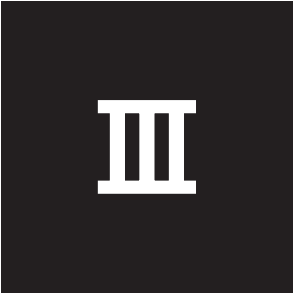
札幌市立大学 産学連携フローチャート



人と向きあう、未来を創る。



SAPPORO CITY UNIVERSITY



III

地域連携・地域貢献活動

1. 公開講座開催
2. 受託研究
3. 共同研究
4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)
5. 研究支援地域連携センターのご案内

1. 公開講座開催

大学企画 公開講座

講座名	月日	演題名	講師
となりのユニバーサルデザインシリーズ 全3話	第1話 2024/9/12(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ第1話 「日本語のユニバーサルデザイン」	酒井 正幸(札幌市立大学・名誉教授)
	第2話 2024/10/3(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ第2話 「人に伝えるためのユニバーサルデザイン」	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
	第3話 2024/11/7(木)	となりのユニバーサルデザインシリーズ第3話 「遊びのユニバーサルデザイン」	小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
環境デザインシリーズ 全3話	第1話 2024/10/19(土)	環境デザインシリーズ第1話 「生態系のデザイン」	椎野 亜紀夫(デザイン学部・教授)
	第2話 2024/10/26(土)	環境デザインシリーズ第2話 「植物のデザイン」	御手洗 洋蔵(デザイン学部・准教授)
	第3話 2024/11/2(土)	環境デザインシリーズ第3話 「昆虫のデザイン」	酒井 正幸(札幌市立大学・名誉教授)
まちの健康応援室ミニ出張講座 全2回	第1回 2024/8/26(月)	子どもにおこりやすい事故とその予防・心肺蘇生法について	牧田 靖子(看護学部・講師)
	第2回 2024/9/13(金)	子どものケガ(切り傷・打撲・鼻血など)と応急手当について	牧田 靖子(看護学部・講師)
札幌芸術の森 自然観察会	2024/4/27(土)	札幌芸術の森 自然観察会(スプリングフェスタの一環で開催)	椎野 亜紀夫(デザイン学部・教授)
積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？ ～避難生活で起こり得るリスクと必要な備え～	2024/10/12(土)	積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？ ～避難生活で起こり得るリスクと必要な備え～	鬼塚 美玲(看護学部・講師)
メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	2024/6/22(土)	メカトロ教室「走れ！ロボットカー！」	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
ICTを活用した高齢者向けレクリエーションコンテンツについて	2024/9/26(木)	ICTを活用した高齢者向けレクリエーションコンテンツについて	三谷 篤史(デザイン学部・教授) 村松 真澄(看護学部・准教授) 田頭 正一(西健康づくりセンター・館長)
マイコンレーサー講習会	2024/10/27(日)	マイコンレーサー初級講習会	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
	2024/11/10(日)	マイコンレーサーテクニカル講習会	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
	2024/11/17(日)	マイコンレーサー北海道大会	三谷 篤史(デザイン学部・教授)
なるほど！デザインの導き方 ～ユーザーが気づいていない本質を見つけてみよう～	2024/11/1(金)	なるほど！デザインの導き方 ～ユーザーが気づいていない本質を見つけてみよう～	伊藤 健世(デザイン学部・教授)
ChatGPTを活かそう～生成AIの基本と活用～	2024/10/6(日)	ChatGPTを活かそう～生成AIの基本と活用～	大淵 一博(デザイン学部・講師) 吉田 彩乃(デザイン学部・助教)

心と脳と人工知能(AI)-複雑系の視点から (全6回)	第1回 2024/11/16(土)	壊れた脳は何かできて何ができないか: 前頭葉と海馬破壊	津田 一郎(AITセンター・特任教授)
	第2回 2024/11/30(土)	壊れた脳は何かできて何ができないか: 幻覚と人工知能(AI)発展史から新しいAIへ	津田 一郎(AITセンター・特任教授)
	第3回 2024/12/7(土)	コンピューター将棋、人間×AI技術と漫画『ばいどん』プロジェクト、Chat GPT	松原 仁(京都橘大学・教授) 中垣 俊之(北海道大学・教授) 中島 秀之(札幌市立大学・学長) 津田 一郎(AITセンター・特任教授)
	第4回 2024/12/14(土)	複雑系、AI×アンドロイド「オルタ」、言語と身体	池上 高志(東京大学・教授) 中島 秀之(札幌市立大学・学長) 津田 一郎(AITセンター・特任教授)
	第5回 2024/12/21(土)	共生ロボティクス、痛みセンシング、構成論的手法	浅田 稔(大阪国際工科専門職大学・副学長) 中島 秀之(札幌市立大学・学長) 津田 一郎(AITセンター・特任教授)
	第6回 2025/1/11(土)	深層学習、人とAIの共生社会	麻生 英樹(産業技術総合研究所・招聘研究員) 中島 秀之(札幌市立大学・学長) 津田 一郎(AITセンター・特任教授)
厳冬の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	2024/12/7(土)	厳冬の地震災害への備えはできていますか？ 「寒冷環境・雪環境下の災害看護活動で知っておくべきリスクと備え」	尾立 篤子(東邦大学健康科学部看護学科・教授、学部長) 鬼塚 美玲(看護学部・講師)
子ども向けワークショップ「アートにであう」	2024/7/6(土)	①子ども向けワークショップ「アートにであう」 ②アーティストトーク	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授) 藤沢 礼央(デザイン学部・講師) 吉田 彩乃(デザイン学部・助教)
あそびイベントMoNaKa さわってあそぼう！	2024/7/28(日)	あそびイベントMoNaKa さわってあそぼう！	細谷 多聞(デザイン学部・教授) 小宮 加容子(デザイン学部・准教授)
笑顔でつながる！認知症と向き合うコミュニケーションとオーラルケア 2回シリーズ	2024/9/14(土)	心をつなぐ話し方！認知症と向き合うコミュニケーション	貝谷 敏子(看護学部・教授)
	2024/10/19(土)	元気の秘訣！認知症を防ぎ健康を守る口腔ケア	貝谷 敏子(看護学部・教授) 奥村 由美恵(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)
【追加開催】積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？ ～避難生活で起こり得るリスクと必要な備え～	2024/12/21(土)	積雪寒冷期の地震災害への備えはできていますか？ ～避難生活で起こり得るリスクと必要な備え～	鬼塚 美玲(看護学部・講師)
しっくい壁ワークショップ	2024/9/11(水)	しっくい壁ワークショップ	金子 晋也(デザイン学部・准教授)
札幌芸術の森 秋の観察会	2024/10/14 (月・祝)	札幌芸術の森 秋の観察会	椎野 亜紀夫(デザイン学部・教授)
札幌市立大学小児看護学領域 「アナフィラキシーショック時の対応～エビベン注射の手技をまなぼう」	2024/9/1(日)	札幌市立大学小児看護学領域 「アナフィラキシーショック時の対応～エビベン注射の手技をまなぼう」	牧田 靖子(看護学部・講師)
SCU AW Fashion Show @SOZO～想像・創造～	2024/10/12(土)	SCU AW Fashion Show @SOZO～想像・創造～	並木 翔太郎(デザイン学部・准教授)
札幌軟石で建てられた建物つくりと魅力、次世代へ	2024/11/12(火)	札幌軟石で建てられた建物つくりと魅力、次世代へ	西川 忠(デザイン学部・教授) 三角 颯音(デザイン研究科博士前期課程2年) 金子 明日香(デザイン学部4年)

Huddling Fashion Show 2024 ～防寒×ファッションを楽しむ～ ※小学生対象のワークショップ有	2024/11/30(土)	Huddling Fashion Show 2024	並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 矢久保 空遥(デザイン学部・助教)
	2024/12/1(日)	Huddling Fashion Show 2024	並木 翔太郎(デザイン学部・准教授) 矢久保 空遥(デザイン学部・助教)
スコットランドの大学での空間デザイン教育に触れて	2024/12/23(月)	スコットランドの大学での空間デザイン教育に触れて	山田 良(デザイン学部・教授)
やさしく学ぶメンタルヘルス:こころの健康を守るために	2025/2/1(土)	やさしく学ぶメンタルヘルス:こころの健康を守るために	渋谷 友紀(看護学部・助教)
こころの健康講座「3月は自殺対策強化月間です」 ～自殺について正しい知識の修得とその予防～」	2025/3/1(土)	こころの健康講座「3月は自殺対策強化月間です」 ～自殺について正しい知識の修得とその予防～」	守村 洋(看護学部・准教授)
自分の性を大切にし、自分らしく生きる方法 ～ライフプランをデザインしながら考えよう～	2025/3/22(土)	自分の性を大切にし、自分らしく生きる方法 ～ライフプランをデザインしながら考えよう～	市戸 優人(看護学部・助教) 細川 奈々花(看護学部3年) 野中 妃夏(看護学部3年)
ChatGPTを活かそう ～生成AIの基本と活用～ [再開催]	2025/3/9(日)	ChatGPTを活かそう ～生成AIの基本と活用～ [再開催]	大淵 一博(デザイン学部・講師) 吉田 彩乃(デザイン学部・助教)
ビジネスにおけるアイデア創造 ～最適解を導き出す～	2025/2/8(土)	ビジネスにおけるアイデア創造 ～最適解を導き出す～	柿山 浩一郎(デザイン学部・教授)
生活に役立つ看護師のライフハック ～看護の知恵を生活に生かそう～<全4回>	2025/2/1(土)	<第1回>「学習理論を生活に役立てよう！」	中平 紗貴子(看護学部・特任講師) 檜山 明子(看護学部・准教授)
	2025/2/5(水)	<第2回>「いきいきマイライフー来る老年期への心得ー」	原井 美佳(看護学部・准教授) 佐々木 聖子(株式会社メディカルシステムネットワーク開発事業本部・担当部長)
	2025/2/27(木)	<第3回>「体温・血圧を正しく測って健康管理」	三戸部 純子(看護学部・講師) 吉田 実和(看護学部・助教)
	2025/3/8(土)	<第4回>「更年期を幸年期に！」	荒木 奈緒(看護学部・教授) 岡谷内 美乃里(札幌円山整形外科病院リハビリテーション科・理学療法士)

ちえりあとの共催講座:「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

講座名	月日	演題名	講師
さっぽろ市民カレッジ講座2024春・夏期 「小樽の歴史的建造物をたどる」	第1回 6/17(月) 第2回 6/24(月)	小樽の歴史的建造物をたどる	羽深 久夫(札幌市立大学・名誉教授)

北海道立総合研究機構との共催講座:「知活(ちいき)ゼミナール」

講座名	月日	演題名	講師
知活(ちいき)ゼミナール2024 「冬の災害から命を守る」 【YouTube 配信】	2024/12/2(月) ～ 2025/2/28(金)	①札幌市立大学「厳冬期の地震災害から命を守る！私たちの避難生活で想定されるリスクと必要な備え」 ②道総研「巨大地震から命を守る地震・津波の防災対策」	①鬼塚 美玲(看護学部 講師) ②今井 崇嗣(建築研究本部北方建築総合研究所地域研究部防災システムG 研究職員)

2. 受託研究

No.	研究名称	委託者	期間	研究代表者・共同研究者
1	重症患者における効果的な口腔ケア解明	アルケア 株式会社	2022年11月7日 ～2025年3月31日	卯野木 健(看護学部 教授)
2	キウシト湿原保全基礎研究	登別市	2024年4月24日 ～2025年3月4日	矢部 和夫(専門研究員)
3	都市公園の利用実態に関する調査研究	恵庭市	2024年5月10日 ～2025年3月31日	椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授)
4	平岡公園木道及び散策路改修検討業務(その2)	札幌市建設局	2024年8月23日 ～2025年3月14日	矢部 和夫(専門研究員) 大島 卓(デザイン学部 准教授)
5	市販構造計算ソフトによるRCHB造の荷重・応力計算方法の開発	一般社団法人 北海道建築技術協会	2024年9月10日 ～2024年11月29日	西川 忠(デザイン学部 教授)
6	第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 「ソーシャルアクティビティ」スペースのデザイン	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会	2025年1月16日 ～2025年6月30日	片山 めぐみ(デザイン学部 准教授) 檜山 明子(看護学部 准教授)
7	円山動物園モンキーハウス・オランウータンとボルネオの森の室内気候と室内展示空間デザイン研究	札幌市	2025年2月12日 ～2025年3月31日	伊藤 健世(デザイン学部 教授) 齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 坪内 健(デザイン学部 助教) 吉田 彩乃(デザイン学部 助教)

3. 共同研究

No.	研究名称	申込者	期間	本学研究担当者
1	情報価値の高い動画コンテンツの研究・映像サンプルの実験計画策定と感性評価	三菱電機 株式会社 統合デザイン研究所	2024年4月1日 ～2025年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部 教授)
2	救急需要予測に基づく救急搬送体制整備に関する研究	札幌市消防局	2024年4月25日 ～2025年3月31日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
3	深層学習を用いた交通量調査に関する研究	株式会社 イセイ・エンジニアリング	2024年4月18日 ～2025年3月31日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
4	歴史的建築物を活かした中心市街地活性化に関する研究	浦臼町	2024年 5月14日 ～2025年3月31日	西川 忠(デザイン学部 教授)
5	自転車タクシーのデザイン	トヨタ自動車北海道 株式会社	2024年 5月28日 ～2025年3月31日	榎田 聡志(デザイン学部 助教)

6	防災まちづくりにおける防災・減災対策評価ツールの開発	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	2024年6月20日 ～2027年3月31日	森 朋子(デザイン学部 准教授)
7	原子力施設の廃止措置におけるジェネラリティに関する測定及び評価における基礎研究	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	2024年6月28日 ～2025年3月21日	小林 重人(デザイン学部 准教授)
8	小慢児童等の就職準備に資する(仮称)じぶん観察日記の作成	札幌市保健所	2024年7月5日 ～2025年3月31日	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
9	テキストマイニングを用いた空き家対応記録の分析	札幌市都市局	2024年8月21日 ～2025年3月31日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
10	設備装置のユーザビリティ向上の研究	東京エレクトロン 株式会社	2024年10月16日 ～2025年3月31日	柿山 浩一郎(デザイン学部 教授)
11	ビッグデータを活用した凍結路面対策の評価に関する研究	山田技研 株式会社	2024年10月1日 ～2026年3月31日	高橋 尚人(AITセンター 教授)
12	雪氷の特性を活かした屋外空間デザインの研究	一般社団法人 北海道開発技術センター	2024年11月15日 ～2025年3月31日	齊藤 雅也(デザイン学部 教授) 大島 卓(デザイン学部 准教授)

4. 地域貢献(地域産学連携協力依頼)

研究支援地域連携センターへの協力依頼一覧(2024年度)

No	依頼名称	依頼元	対応
1	第28回 全国建築塗装技能競技大会(北海道大会)	一般社団法人 日本塗装工業会 北海道支部 支部長 稲葉 了大	大島 卓(デザイン学部 准教授)
2	利用者に安心感を与える園名板等デザイン調査協力	恵庭市 市長 原田 裕	椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授)
3	令和6年度「若い世代の食育事業」(副題～本気めしプロジェクト)「ランチョンセミナー～しっかり朝食、毎日元気！～」事業	札幌市南区保健福祉部 保健担当部長 矢野 公一	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授) 藤沢 礼央(デザイン学部 講師) 吉田 彩乃(デザイン学部 助教)
4	冬みち便りデザインの制作事業	札幌市 市長 秋元 克広	大島 卓(デザイン学部 准教授)
5	札幌市グリーティングカード作成事業	札幌市総務局 国際部長 久道 義明	大淵 一博(デザイン学部 講師)
6	広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部 講師)

7	幌加内町認知症ケアパス作成事業	幌加内町 町長 細川 雅弘	大淵 一博(デザイン学部 講師)
8	駒岡清掃工場ロゴマーク制作事業	株式会社タクマ 北海道運営推進課長 大元 祐二	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
9	第7回いきいき健康塾	幌加内町 町長 細川 雅弘	原井 美佳(看護学部 准教授) 近藤 圭子(看護学部 助教) 大淵 一博(デザイン学部 講師)
10	ショップバックデザインコンペ	株式会社 土屋ホームトピア 代表取締役 菊地 英也	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
11	さっぽろオータムフェスト2024大通4丁目会場噴水ライトアップデザイン制作	株式会社 電通北海道 代表取締役社長執行役員 木村 平	横溝 賢(デザイン学部 准教授)
12	NTT東日本札幌病院 健康セミナーポスター募集	NTT東日本 札幌病院 院長 吉岡 成人	大淵 一博(デザイン学部 講師)
13	外部講師による特別体験イベント	公益社団法人 札幌市子ども会育成連合会 子どもの体験活動の場Coミドリ施設長 高橋 嘉博	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
14	第30回 芸術の森地区文化祭(展示協力)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	大島 卓(デザイン学部 准教授)
15	第30回 芸術の森地区文化祭(ポスター制作協力)	芸術の森地区連合会 会長 下総 仁志	大島 卓(デザイン学部 准教授)
16	農産加工品のブランディングとパッケージデザインプロジェクト	社会福祉法人 旭川旭親会 理事長 今野 正孝	片山 めぐみ(デザイン学部 准教授)
17	機関誌Tjena! (シェーナ)発行	北海道スウェーデン協会 事務局長 目黒 聖直	榊田 聡志(デザイン学部 助教)
18	常盤中学校2学年 総合的な学習の時間『私達の郷土～常盤、石山東～を見直し、街の活性化プランを考えよう』への参加協力依頼	札幌市立常盤中学校 学校長 坂本 健	椎野 亜紀夫(デザイン学部 教授)
19	樽前アートスクール2024 タルマエ探検隊(冬)樽前をえがこう!	苫小牧市教育委員会 教育長 福原 功	藤沢 礼央(デザイン学部 講師)
20	はちとまネットワーク企画 アートワークショップの企画と実施	八戸市 市長 熊谷 雄一	藤沢 礼央(デザイン学部 講師)
21	市立大学の学生との意見交換会	札幌市 市長 秋元 克広	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)

22	総合的な探求の時間における学生へのインタビュー	北海道札幌北陵高等学校 校長 加藤 誠	須之内 元洋(デザイン学部 講師)
23	冬の「雪あかり」イベントPRチラシの制作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部 講師)
24	第5次さっぽろ子ども未来プランの表紙デザイン制作	札幌市 子ども未来局長 佐藤 学	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
25	ホスピタルアート展示への作品展示協力	市立札幌病院 札幌市病院事業管理者 西川 秀司	細谷 多聞(デザイン学部 教授) 小宮 加容子(デザイン学部 准教授)
26	すすきの地区ポイ捨て防止新規啓発広告デザインの制作	札幌市環境局環境事業部 事業廃棄物課長 望月 純輝	大島 卓(デザイン学部 准教授)
27	アレルギー原因食品(アレルゲン)ピクトグラムの追加制作	札幌市保健福祉局保健所長	矢久保 空遥(デザイン学部 助教)
28	NTT東日本札幌病院 病院広報誌作成	NTT東日本 札幌病院 院長 吉岡 成人	大淵 一博(デザイン学部 講師)
29	「みなみさわ体操」の動画提供、Tシャツのデザインの提供及びTシャツの制作	南沢地区町内会連合会 会長 高畑 修	金子 晋也(デザイン学部 准教授) 鬼塚 美玲(看護学部 講師)
30	南区の魅力をPRする啓発品制作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部 講師)
31	南区の魅力をPRする啓発品制作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部 講師)
32	南区の魅力をPRする啓発品制作事業	札幌市南区 区長 大谷 聡美	大淵 一博(デザイン学部 講師)

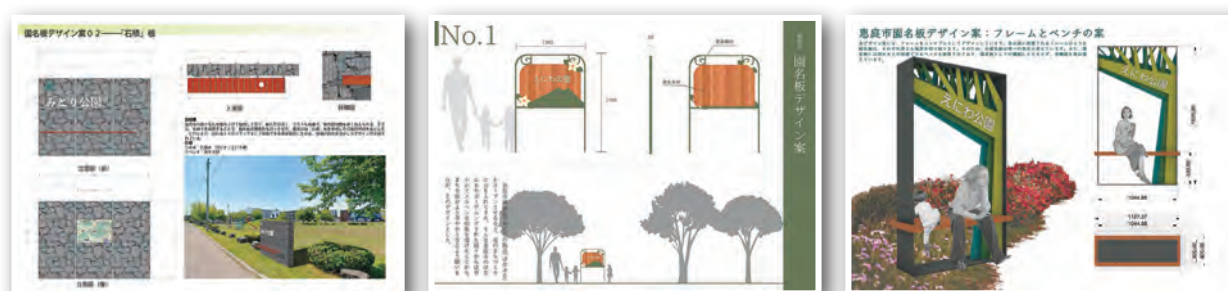
1. 第28回 全国建築塗装技能競技大会（北海道大会）

一般社団法人日本塗装工業会北海道支部より依頼を受け、「第28回全国建築塗装技能競技大会（北海道大会）」のポスターデザイン案を制作しました。デザイン学部の学生3名が参加し、A4およびB2サイズのポスター3案と、それぞれのコンセプトシートを提案しました。キャッチフレーズも含めたデザイン案は、競技大会の趣旨や職人技の魅力を伝える内容となっています。本大会は2年に一度、全国持ち回りで開催され、各地のブロック大会を勝ち抜いた建築塗装技能者が参加します。制作されたポスターは、今後の広報活動に活用される予定です。



2. 利用者に安心感を与える園名板等デザイン調査協力

恵庭市建設部公園緑地課からの依頼を受け、本学デザイン研究科の学生3名（呉 穎怡さん、相 映臣さん、長岡 南風さん）が、園名デザイン統一のため、都市公園の園名板デザインを提案しました。学生が制作した6案は恵庭市のWEBサイトに掲載され、市民アンケートによって広く意見が募られた結果、相 映臣さんの「石積」板が最多得票を獲得しました。選ばれたデザイン案は、令和7年度に市内の複数の公園に設置される予定であり、若い感性と市民の声が融合した新たな景観づくりの一環として期待されています。



5. 札幌市グリーティングカード作成事業

札幌市が国内外に送付するグリーティングカードのデザインを、デザイン学部1、2年生の計16名が提案しました。札幌市総務局国際部職員らによる審査会が行われ、2年の沖田二胡さんの作品が採用されました。市長・副市長の署名入りカード約500通が、ドイツ・ミュンヘンをはじめとする29カ国の姉妹都市や在札外国公館へ12月に発送されました。12月には市役所で記念品贈呈式も行われました。応募作品は2025年1月、さっぽろ地下街オーロラタウンで開催された「ワールドグリーティングカード展」で展示され、市民に広く公開されました。



6. 広報さっぽろ南区版表紙デザイン事業

南区の魅力をPRするため、「デザイン総合実習Ⅰ・南区役所のブランディングとデザイン」で制作した「南区をイメージしたロゴマーク」を使い、広報さっぽろ南区版令和6年5月号～令和7年4月号の表紙ページ（ヘッダ部分）を学生がデザインしました。



7. 幌加内町認知症ケアパス作成事業

幌加内町の認知症ケアパス普及に向けたリーフレット制作に、デザイン学部2年の聖前日菜さんと中道千尋さんが取り組みました。町から提供された内容を基に、町民にとって見やすく親しみやすいフライヤーデザインを目指して制作を行いました。完成したフライヤーは、幌加内町保健福祉総合センター内の保健福祉課窓口で配布されるほか、幌加内町の公式WEBサイトにも掲載される予定です。本事業には、学生と教員、依頼者間でのデザインやデータ調整などを通して、学生がデザイン決定のプロセスなどを学ぶことのできる実践的な取り組みとなりました。



9. 第7回いきいき健康塾

幌加内町で開催された「いきいき健康塾」は、2016年度から継続して行われている高齢者向け健康啓発イベントです。交通の便が限られる地域において、年に一度の交流の場としても親しまれています。昨年度から町が主催し、看護学部とデザイン学部の学生・教員が運営に協力しました。体組成測定や医師による講話のほか、学生が企画した「いきいき運動でワンダフルなライフを！」などのアクティビティも実施。町の四季をあしらった健康手帳や、測定結果をラベル化する「HORKA」も活用され、健康づくりへの意識づけに貢献しました。5年ぶりのカレー作りも大好評で、地域と学生の温かな交流が生まれました。



11. さっぽろオータムフェスト 2024 大通 4 丁目会場噴水ライトアップデザイン制作

食の秋を彩る祭典・さっぽろオータムフェスト IN 4 スクエア（大通西 4 丁目会場）の噴水（2024/9/6～9/29）にてデザイン学部 2 年生が制作したフードグラフィックイルミネーション 3 作品が投影されました。山本晴日さんが制作した「万華鏡〜丸ごと北海道」は 9/6（金）～9/13（金）、反橋瑠璃さんが制作した「味噌ラーメンタングル」は 9/14（土）～9/21（土）、大久保杏優さんが制作した「しめパフェに誘われて」は 9/22（日）～9/29（日）にそれぞれ投影されました。



12. NTT 東日本札幌病院 健康セミナーポスター募集

NTT 東日本札幌病院で年 4 回程度開催されるセミナー向けに、ポスターデザインの制作が行われました。学内での周知を経て、デザイン学部の学生 5 名が参加し、1 人あたり 4 作品、計 20 作品が提出されました。

審査の結果、デザイン学部 2 年の大久保杏優さんの作品が採用され、今後は 4 種のテンプレートからセミナー内容に応じて選定・編集され、正式なポスターとして活用される予定です。また、11 月 19 日には同病院にて表彰式が行われ、院長より記念品と賞状が贈られました。学生の創造力が医療現場の広報に生かされる貴重な機会となりました。



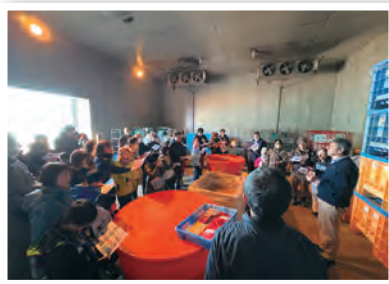
14. 第 30 回 芸術の森地区文化祭（展示協力）

豊かな自然と芸術文化に恵まれた芸術の森地区では、住民による日々の文化活動が活発に行われており、その成果発表の場として芸術の森地区文化祭が行われました。本学の学生も昨年に続き出展の協力依頼があり、展示を行いました。開催当日は前日の降雪により足元が悪く、やや来場者数に影響が出たものの、2 日間で 502 名が来場。本学からは日本造園学会全国大会 U30 デザインコンペ受賞パネルや、駒岡小学校を題材にした研究報告パネルを展示しました。全体では地域の団体や個人による 736 点の作品が並び、多くの来場者に地域文化の魅力を伝える機会となりました。



19. 樽前アートスクール 2024 タルマエ探検隊（冬）樽前をえがこう！

苫小牧市西端の樽前地区を舞台に、小学生と保護者を対象とした教育プログラムが2025年1月25日、26日の二日間を通して開催しました。地域の魅力と芸術の楽しさを親子で体感し、子どもたちの感性や創造性を育むとともに地域交流を目的とした本プログラムには、2日間で計60名が参加。樽前小学校を拠点に、地域の農業や産業を見学・体験した後、その経験をもとに楕円形のキャンパスに絵を描くワークショップが行われました。企画立案から地域・学校との調整、当日のガイドや講師まで幅広く協力し、地域資源を活かした学びと交流の場として、参加者や関係者からも高い評価を得ました。



20. はちとまネットワーク企画 アートワークショップの企画と実施

苫小牧市と八戸市（青森県東部）の政策連携事業の一環として、八戸市美術館にて市民向けアートワークショップを実施しました。11月8日には高齢者30名が参加し、協働絵画「みんなの一筆」を制作。9日には児童や一般市民40名が参加し、鉄を使ったキーホルダー作り「鉄たたけます。」を開催しました。本学は、企画立案から両市美術館との調整、当日の講師まで幅広く協力し、地域を越えた創造的な交流の場づくりに貢献しました。参加者からは「楽しかった」「また参加したい」といった声も寄せられ、好評を博しました。



23. 冬の「雪あかり」イベントPRチラシの制作事業

札幌市南区で開催される「雪あかり」イベントの広報チラシを制作する事業において、デザイン学部人間情報デザインコース2年の倉見京佳さんの作品が採用されました。元のデザインは、授業課題「南区のブランディングデザイン」として提出されたもので、南区地域振興課による審査を経て選出されました。その後、イベントの趣旨や配布先に合わせて調整を加え、チラシとして完成しました。

チラシは2,500枚印刷され、南区役所やまちづくりセンター、真駒内駅、地下歩行空間などで配布されました。



24. 第5次さっぽろ子ども未来プランの表紙デザイン制作

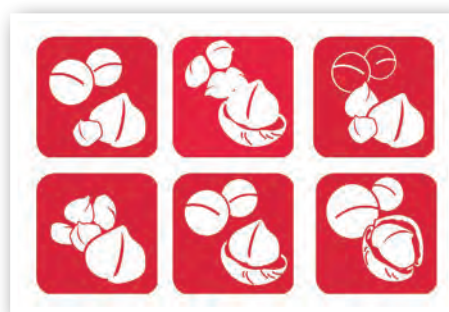
札幌市子ども未来局の依頼により、「第5次さっぽろ子ども未来プラン」の計画本書・概要版冊子および子ども版冊子の表紙デザインを、本学の学生と教員が制作しました。

本プランは、子ども施策分野における札幌市の個別計画であり、札幌市が今後目指すべき基本理念を象徴するにふさわしいデザインが求められました。学生たちは、子どもたちの未来や希望を感じさせる表現を意識しながら制作に取り組み、教員の指導のもとで完成度を高めました。完成したデザインは、市の施策を広く市民に伝える重要なツールとして活用されています。



27. アレルギー原因食品（アレルゲン）ピクトグラムの追加制作

札幌市では、すでに製作されているアレルギー原因食品ピクトグラム 28 種に加え、新たに「マカダミアナッツ」のピクトグラムを追加することになりました。そのデザインについて、一般の方にも広く認知され、親しみやすさを感じてもらえるものとするため、本学の学生に制作が依頼されました。教員の指導のもと、既存のピクトグラムのトーン&マナーを踏襲しながら、統一感のある新たなピクトグラムを制作。完成したデザインは、今後の市のアレルギー表示に活用され、安心・安全な食環境づくりに貢献することが期待されています。



30. 南区の魅力を PR する啓発品制作事業

札幌市南区の魅力を PR する啓発品として、保冷温ランチバッグ、レインポンチョケースのデザインを制作する事業が行われました。デザインには、総合実習Ⅰ（人間情報デザインコース）の授業課題「南区のブランディングデザイン」として提出された学生作品の中から、南区地域振興課の審査により選ばれた、同コース2年・井向美釉さんの作品が採用されました。ランチバッグ、レインポンチョケースのサイズに合わせて、授業内で制作したロゴを調整し、実用性とデザイン性を兼ね備えた仕上がりとなりました。完成した保冷温ランチバッグ、レインポンチョケースは、今後南区地域振興課が主催するイベントなどで、市民に無料配布される予定です。

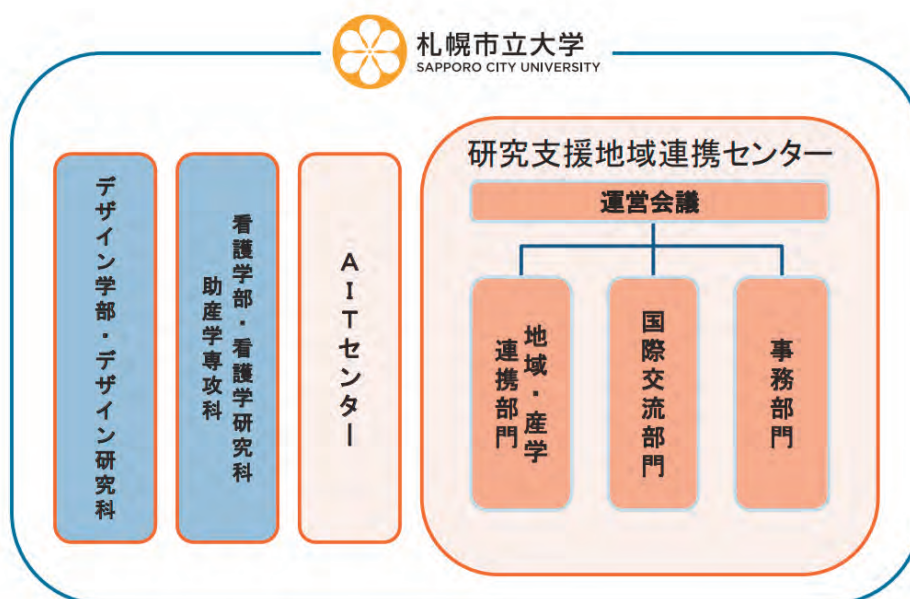


5. 研究支援地域連携センターのご案内

研究支援地域連携センターは、2007 年 4 月に本学における研究活動、地域貢献活動及び国内外のネットワークの形成推進を図ることを目的に設置されました。センターでは以下の業務を担当しています。

- 1) 研究費、研究成果の公表等研究活動の推進に関する事項
- 2) 共同研究・受託研究、研究に係る寄付金等外部資金に関する事項
- 3) 市民講座等地域貢献に関する事項
- 4) サテライトキャンパスの活用に関する事項
- 5) 産学官金連携に関する事項
- 6) 国際交流その他の国内外のネットワークに関する事項
- 7) 知的財産に関する事項

研究支援地域連携センターは設置者である札幌市との連携のほか、「札幌芸術の森」や「北海道立総合研究機構」と連携協定を締結し、さらに北海道中小企業家同友会産学連携研究会（HoPE）や R&B パーク札幌大通サテライト（HiNT）運営協議会に参加して産学官金連携・地域連携に取り組んでいます。



【研究支援地域連携センターにおける社会との連携・協力に関する方針】

- 1 地域に資する研究の推進に加え、その研究成果を還元し、本学の持てる知的資源を活用するために、公開講座等を通じて、地域社会の人材育成、専門職の継続教育を推進する。
- 2 本学の構成員が、地域社会、産業界あるいは地方自治体等行政と連携をすることにより、本学が地域社会に果たすべき役割を積極的に担うことを支援する。
- 3 日本にとどまらず、アジア及び世界に視野を向け、協働し、本学の教育及び研究の交流を更に発展させることを支援する。

SCU産学官金連携相談窓口

研究支援地域連携センターでは、産学官金連携・地域連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学官金連携相談窓口」を開設しています。こんな時、ぜひお気軽にご相談ください。

研究・活動の内容を知りたい／札幌市立大学との連携方法について知りたい
教員を紹介してほしい／公開講座等の行事等について知りたい など…

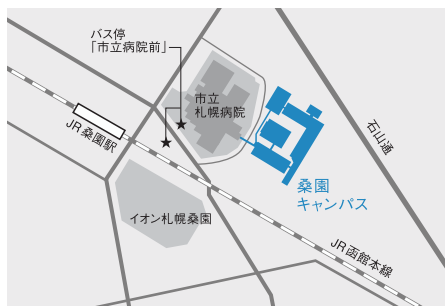
ご来訪の折にはご面倒でもあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。
日時と場所をご相談させていただき、下記いずれかのキャンパスで承ります。

お問い合わせ・連絡先 札幌市立大学 地域連携課 地域・産学連携担当
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2346 FAX：011-592-2369 E-mail：crc@scu.ac.jp



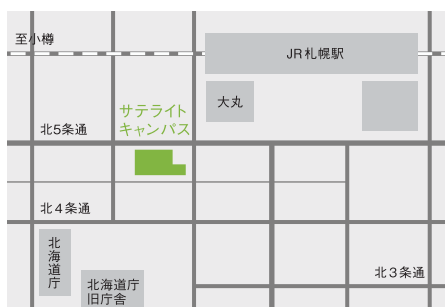
1. 芸術の森キャンパス

場所 札幌市立大学 芸術の森キャンパス
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
Tel 011-592-2300(代表)



2. 桑園キャンパス

場所 札幌市立大学 桑園キャンパス
〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目
Tel 011-726-2500(代表)



3. サテライトキャンパス

場所 札幌市立大学 サテライトキャンパス
〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ 45 ビル12階
Tel 011-218-7500

札幌市立大学 研究・活動事例集 2025

編 集 札幌市立大学研究支援地域連携センター

発行日 2025（令和 7）年 7 月 15 日

発 行 札幌市立大学研究支援地域連携センター

〒005-0864 札幌市南区芸術の森 1 丁目

TEL.011-592-2346

FAX.011-592-2369

<https://www.scu.ac.jp>

E-mail:crc@ scu.ac.jp



www.scu.ac.jp

札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY